

(8) 振り返り・まとめ：アンケート実施、学校ホームページ等へ動画の掲載（その1）

「Google Forms」を使って、「あおもり創造学」の自己評価を実施しました。

【実施日】令和4年11月14日（月）15:10～16:00（探究1時間分）

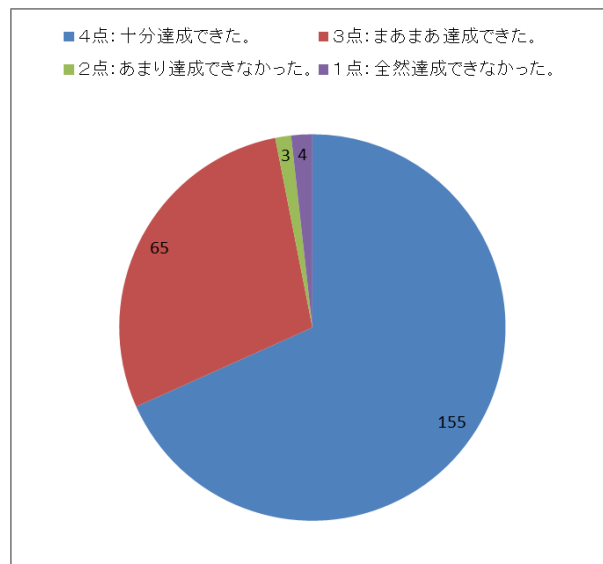
R4 「あおもり創造学」振り返りシート

「あおもり創造学」の活動内容（講演会、ビブリオバトル、職業人講話、ミニ課題研究）を振り返り、「目的」を達成できたかどうか、4点満点で「自己評価」をしてください。
（4点：十分達成できた。3点：まあまあ達成できた。2点：あまり達成できなかった。1点：全然達成できなかった。）

1 講演会 「私たちはなぜ学ぶか」（木村 達哉 氏）において、下の目的は達成できたか。

【目的】教育分野及び地域活性化への取組で活躍された方（木村氏）の講演を聞き、これから社会や大学において「なぜ学び、なぜ働くのか」、「働くことがどのように社会に貢献するのか」を考えるきっかけとする。また、地域貢献への思いを聞くことにより、地域課題を考察する姿勢を身に付ける。

4点：十分達成できた。	155	68.3%
3点：まあまあ達成できた。	65	28.6%
2点：あまり達成できなかった。	3	1.3%
1点：全然達成できなかった。	4	1.8%
(平均)	3.63	



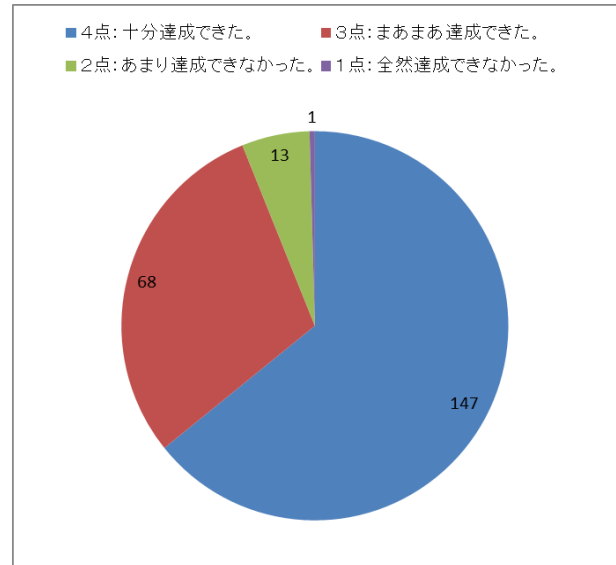
【5-2 より】

- ・いい大学に入るために勉強するのではなく自分のレベルアップのために勉強しようと思った。
- ・私たちはなぜ今、勉強をしているのか、なぜ大学への進学を目指しているのかをよく理解できました。将来、自分がどのような形で社会に貢献していくのか想像はまだできませんが、そのヒントのようなものが得られた気がします。
- ・勉強する意味を見出せた。勉強が大事であると再確認できた。
- ・日本の問題の現状や私たちの勉強方法についてお話くださった中で、私が理解していることは本当に少なく自分の視野の小ささを恥じる機会となった。具体的に言うと青森県に住んでいる私よりも木村氏が「太宰治」という青森県が世界に誇る作家についての理解度が遙かに上回っていて、教養として得るべきものを可能な立場でありながら零にしていると思った。これを機に高校に入って一気に上がった勉強のレベルにあくせくしながらついていっただけではなく、もっと頑張るべきものがあると遅ればせながら気づいた。
- ・日々の勉強に対する考え方、気の持ち方が変わり、少し楽しく勉強できるようになったから。
- ・よく自分はなぜ勉強しなければならないのだろうと思ってしまうことがよくあったが木村さんの「弱者に寄り添い社会の力になるために勉強する」という言葉を聞いてから勉強に対するモチベーションが高くなった。
- ・どうして勉強しないといけないのか、別にしなくてはいけない訳ではないが、勉強することで人生が大きく変わるということを知ることができた。勉強というものを考えるきっかけになった。

2 ビブリオバトル 「人を通して本を知る、本を通して人を知る」において、下の目的は達成できたか。

【目的】『至極の一冊』に出会い、他者に紹介し、発表力を競い合うことで、自己啓発をしながら、自己PR方法を研究する。

4点：十分達成できた。	147	64.2%
3点：まあまあ達成できた。	68	29.7%
2点：あまり達成できなかった。	13	5.7%
1点：全然達成できなかった。	1	0.4%
(平均)	3.58	



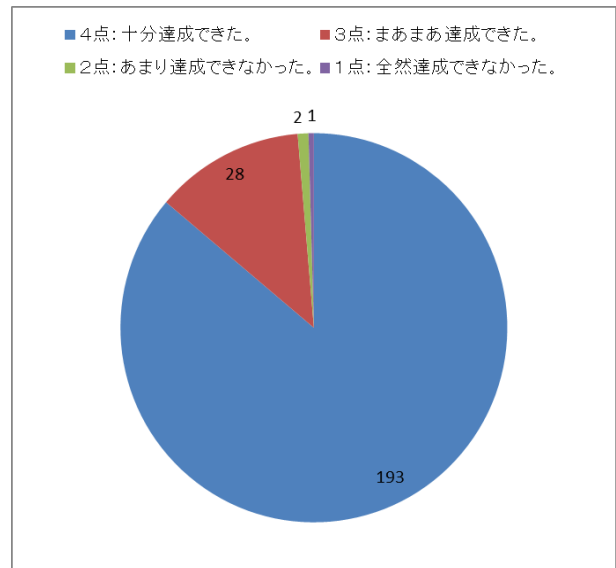
【5-2 より】

- ・普段あまり本を読まないが、ビブリオバトルが本を読むきっかけとなり、自分で選んだ本を他者に紹介するためじっくりと何回も読み、本を読むことの楽しさ、また本から学べることはたくさんあることを知ることができた。
- ・相手に明瞭簡潔に伝えるために、文を何度も推敲し、自分なりの表現法で発表できた。他の人の発表から自分に足りない発表の表現の仕方を学び、発表法を研究した。
- ・青森の部にしたこと、本校卒業生の活躍について学ぶことができたから。また、決勝に出場したことで、大勢の前で発表する機会を得るとともに、他の方の発表を見て参考になるものが多かったから。
- ・準備の大切さを改めて知る機会になった。アドリブの難しさとメリット、デメリットを知ることができた。
- ・人前に立って発表することが、これから何か発表する時に役立つと思いました。また、どうすれば人に興味を持ってもらえる発表になるかも学びました。
- ・私は文章を構成するのが得意ではないため、伝わりやすさを考慮し、話す内容の推敲を繰り返しました。加えて私は人前に出ると緊張してしまうので、何度も練習しました。その過程で、課題研究発表や社会に出たとき役立つプレゼン力を養うことができたと思います。ですから、ビブリオバトルは大変ためになったと感じました。
- ・自分の選んだ本の魅力を文字におこすということをベストな状態でできて、かつそれを大勢の前で萎縮せずに伝えられたというのはなかなかできない体験だと思い、これからの糧になっていくと思った。
- ・何をやるにしてもコミュニケーション能力や表現力は必要だし、これから人の前に立って率いる立場になった時も、自分の考えなどを伝える力が必要になると思います。ビブリオバトルで自分の発表準備をしたり友達の発表を聞いたりして、「もっとこうすれば伝わる」「あの人の伝え方分かりやすい」という発見がたくさんあり、自分の力になりました。
- ・1人で発表する機会が少ないため、会話的でない方法で説明する良い機会だった。面接に役立つと感じた。自分では思いつかない紹介方法を学べた。

3 職業人講話「青森県で活躍・活動するには」において、下の目的は達成できたか。

【目的】実社会ではたらく人の話を聞くことにより、働くことの意義やその職業に求められる資質・能力等を理解し、適切な進路選択の一助とする。また、地元「青森県」で活躍・活動している本校 OB の話から、地域理解・地域活性化について学ぶ。

4点：十分達成できた。	193	86.2%
3点：まあまあ達成できた。	28	12.5%
2点：あまり達成できなかった。	2	0.9%
1点：全然達成できなかった。	1	0.4%
(平均)	3.84	



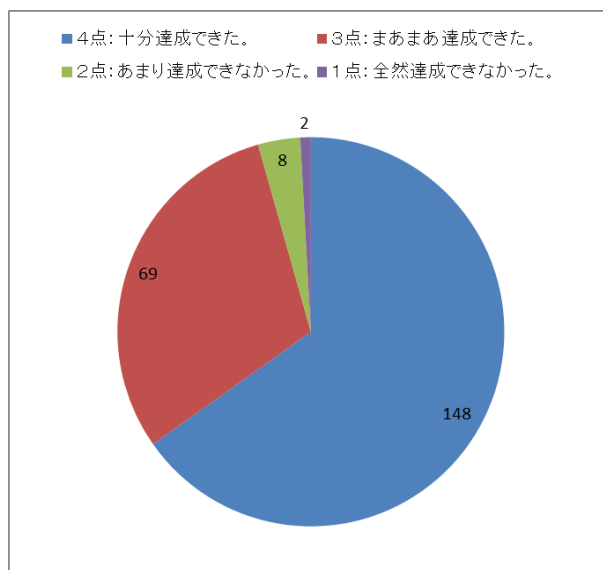
【5-2 より】

- ・将来のことについて具体的な目標などはなかったけど、講話から何の目標もないからこそ今が大切で、それ次第で将来何にでもなれるということを学びました。自分の将来について悩んでいたけれど、まずは今何ができるのか改めて考える機会になりました。
- ・青森県という身近なところで活躍している方の話を聞くことで、自分の住んでいる町がどのようにしてよりよくなっていくべきかを考えさせられるきっかけとなったから。
- ・自分の興味のある分野だけでなく、今まで興味のなかった分野の話を聞くことがより仕事の意義を感じる良い機会になった。好きなことだけでなく幅広く知見を深めていこうと思われたので、自分に多少ながら変化があったと思う。
- ・社会で生きるコツや働く上でのアドバイス(学校では教えない)をもらえたから。
- ・実際に社会に出て職業に就いている人の言葉から、全く興味のなかった職業に就く可能性があるということを知り、将来の道の幅が広がったと感じた。
- ・自分で起業をした方の話や青森にいても世界と関わる仕事をしている方の話を聞き、自分の興味がさらに深まったから。青森にいてもできることの可能性と、青森自体の魅力の再発見につながったから。
- ・岡さんの自由で真っ直ぐな生き方を見て、視野が広がったし将来についてあらためて考えさせられたから。
- ・今の青森県が置かれている状況を知ること、これから自分が何をしていくべきなのかがわかったことで、自分の将来などについて深く考えるきっかけとなった。
- ・実際に県内で働いてる方々の話を聞き、青森県の課題を知ることができた。また、仕事に対する熱意を感じ、働くことへの意欲が高まった。仕事についてだけではなく、これからの人生に役立つ考え方も学ぶことができた。
- ・私の場合妖怪についてのお話を聞いてこんなこと調べてる人がいるのか、てびっくりしました。その話を聞いて視野も広がったし、文系も面白いなと思えるようになった。

4 ミニ課題研究「地域課題解決のために」において、下の目的は達成できたか。

【目的】自分自身の居住地に関する地域課題について調査し、研究課題を設定する活動を通して、地域の課題について多面的に理解する。また、話し合いや発表を通じて、将来青森県を支える人材となる土台とする。

4点：十分達成できた。	148	65.2%
3点：まあまあ達成できた。	69	30.4%
2点：あまり達成できなかった。	8	3.5%
1点：全然達成できなかった。	2	0.9%
(平均)	3.60	

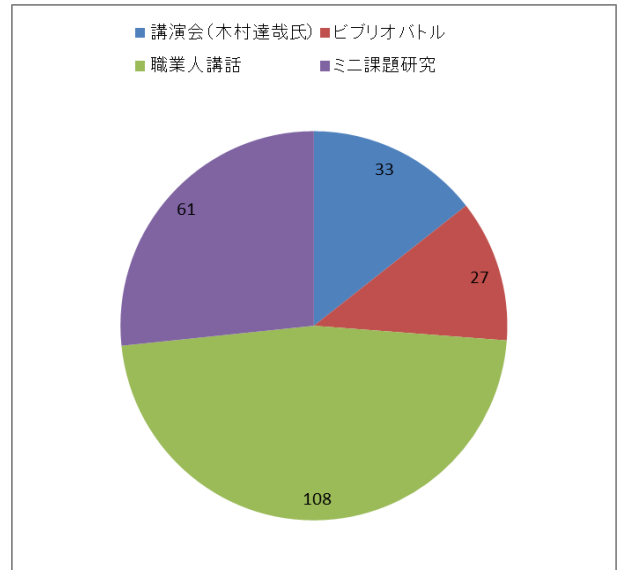


【5-2 より】

- ・自分の住む県や地域の課題について深く知ることができました。そしてその課題についてSDGsに触れながら、みんなで意見を出し課題解決へと取り組む中で、新しいことをたくさん知ることができました。また一つ一つの課題を解決することの大変さなども身をもって知ることができ、良い経験になりました。
- ・青森県についてより一層深く知れたことや興味を持てたことがなにより大きな収穫となった。
- ・自分の住んでいる地域のことをあまり深く知らなかったことがわかり、もっと自分で調べないといけないことが分かった。また話し合うことで、自分の考える計画の盲点がわかり対処法を考えることができた。地域では問題を解決するためにコミュニティとの関係が必要ということがわかり、狭い地域だからこそ親密な関係があって田舎であることは社会問題においてデメリットだけではないのだと考えられた。
- ・ミニ課題研究を通じて自ら調べそれをまとめる難しさを実感できた。
- ・地域課題の調査、研究課題の設定だけでも時間がかかり、自分たちがいかに地域に目を向けずに生活してきたかに気づくことができた。もっとアンテナを張って生活をしたり、積極的にニュースをみたりするなど、これからの自分の行動につなげていけると思う。また、発表後の質疑応答で質問が活発に行われていたので、自分の班の発表時間でも様々な視点から課題解決について考えることができたのでとても楽しかった。
- ・自分で青森の知らないことについて学べた。青森県に様々な問題点があり、これからどんなところに気をつけて生活すれば良いかわかった。
- ・地域の問題解決のための新しい取り組みを考える広い視点や、想像力を養うことができた。また、クラスでの発表を通して聞き手からの質問に理屈の通った返答ができるような臨機応変さを身につけることもできたと思う。
- ・自分の住む地域の課題に向き合い、様々なデータや資料を活用して解決策を自分なりに考えられたし、普段あまり話さない人とも話す機会が増えた。
- ・ミニ課題研究を通して、自分達の地域の今まで気付かなかった問題を発見し、さらに良い街にするためにはどうすれば良いかを自分たちで考えたことで、これからの青森県の未来について具体的に考えることができたし、班員と意見を出し合い話し合えたのでよかったです。

5-1 講演会（木村達哉氏）、ビブリオバトル、職業人講話、ミニ課題研究の中で、一番自分のためになったと思われるものを一つ選べ。

講演会（木村達哉氏）	33	14.4%
ビブリオバトル	27	11.8%
職業人講話	108	47.2%
ミニ課題研究	61	26.6%
(回答総数)	229	



5-2 (5-1) で選んだものが、どう自分のためになったのか、記述せよ。
(*各活動内容のところに表示)

R4 「あおもり創造学」振り返りシート

「あおもり創造学」の活動内容（講演会、ビブリオバトル、職業人講話、ミニ課題研究）を振り返り、「目的」を達成できたかどうか、4点満点で「自己評価」をしてください。

1 講演会「私たちはなぜ学ぶか」（木村達哉氏）において、下の目的は達成できたか。

【目的】教育分野及び地域活性化への取組で活躍された方（木村氏）の講演を聞き、これから社会や大学において「なぜ学び、なぜ働くのか」、「働くことがどのように社会に貢献するのか」を考えるきっかけとする。また、地域貢献への思いを聞くことにより、地域課題を考察する姿勢を身に付ける。

- 4点：十分達成できた。
- 3点：まあまあ達成できた。
- 2点：あまり達成できなかった。
- 1点：全然達成できなかった。

2 ビブリオバトル「人を通して本を知る、本を通して人を知る」において、下の目的は達成できたか。

【目的】『至極の一冊』に出会い、他者に紹介し、発表力を競い合うことで、自己啓発をしながら、自己PR方法を研究する。

- 4点：十分達成できた。
- 3点：まあまあ達成できた。
- 2点：あまり達成できなかった。
- 1点：全然達成できなかった。

3 職業人講話「青森県で活躍・活動するには」において、下の目的は達成できたか。

【目的】実社会ではたらく人の話を聞くことにより、働くことの意義やその職業に求められる資質・能力等を理解し、適切な進路選択の一助とする。また、地元「青森県」で活躍・活動している本校OBの話から、地域理解・地域活性化について学ぶ。

- 4点：十分達成できた。
- 3点：まあまあ達成できた。
- 2点：あまり達成できなかった。
- 1点：全然達成できなかった。

4 ミニ課題研究「地域課題解決のために」において、下の目的は達成できたか。

【目的】自分自身の居住地域に関する地域課題について調査し、研究課題を設定する活動を通して、地域の課題について多面的に理解する。また、話し合いや発表を通じて、将来青森県を支える人材となる土台とする。

- 4点：十分達成できた。
- 3点：まあまあ達成できた。
- 2点：あまり達成できなかった。
- 1点：全然達成できなかった。

5-1 講演会（木村達哉氏）、ビブリオバトル、職業人講話、ミニ課題研究の中で、一番自分のためになったと思われるものを一つ選べ。

- 講演会（木村達哉氏）
- ビブリオバトル
- 職業人講話
- ミニ課題研究

5-2 (5-1) で選んだものが、どう自分のためになったのか、記述せよ。

回答を入力